

## 知識・技術 創造的なプロになるために

### ■ 看護学校

国立病院機構（NHO）は医師・看護師などを対象に体系的な教育研修プログラムを整えています。患者さんや家族の皆さんと接する機会が多い看護師は、全国に39校ある附属看護学校での基礎教育に始まり、その次に病院での実践的な教育と一貫して育て上げることを特色としています。最初に看護学校の教育の様子を紹介します。

### 未来の自分探し



実習をする京都看護助産学校の学生

京都市伏見区にあるNHOの京都医療センター附属京都看護助産学校。授業が終わった夕刻、1階の玄関ホールには多くの看護学生が集い、授業などの話に花を咲かせます。同校には3年間の看護学科（定員80人）と、1年間の助産学科（定員25人）があります。

増山路子副学校長＝

写真＝は「当校では『なりたい自分』『やりたい看護』を見いだせるようにしています」と力を込めます。



す。高校を卒業し看護を学び始めたにしても、

目指す看護師像を明確に描くのは容易ではなく、さまざまな医療や看護の現場を体験し、先輩看護師から教わったりするうちに徐々に自分の進みたい方向が見えてきます。同校ではこのため早期にそれぞれが未来の自分を発見できるように、NHOの附属学校であることを活かし、医療現場での多様な体験に力を注いでいます。

NHOは重症心身障害医療や結核、各種の難病など民間病院では提供されにくい医療も、重要な使命として取り組んでいます。全国にはさまざまな特色を持ったNHOの病院が数多くあります。同校ではこれらの医療現場でも実習をします。加えて同じ敷地内に京都医療センターがあることから、経験豊富な指導者から実践的な教育が日常的に受けられるようにしています。増山副学校長は「こうした環境下にあることで、自分がやりたいことを早期に見いだす学生が多いのではないのかと思います。重症心身障害の医療現場を体験し、この分野の看護をやりたいと目標を定める学生もいます」と話します。同校ではそうした個別の思いを大切にし、実現への後押しをしています。



看護学校の授業の様子  
(京都看護助産学校)

## 夢の実現

将来の夢や目標がある程度見えてくれば、やる気にもつながっていきます。そのことは看護師国家試験の結果に端的に表われてい

ます。毎年2月末に行われる看護師国家試験で、同校はここ10年間、合格率100%という実績を誇っているのです。全国の看護学校の平均合格率は90%ほど。総じてNHOの附属看護学校の合格率は高い(2016年98.4%)ですが、そのなかでもトップランナーと呼べる存在なのです。

NHOの附属看護学校の卒業生は、NHOの病院はもちろんのこと、地域の多様な医療機関でも活躍しています。

増山副学校長は「看護師にとっての必須の要件は、患者さんの体調を正確に観察して把握し、何を欲しているかを見極めること。生命と暮らしを守る実践力が確実に身につくようしっかりと教育をしていきたい」と強調します。

#### 私たちの思い ●●●● 京都看護助産学校2年生

##### 患者さんの元気の源になりたい



人の役に立ちたいと思ったことが、この道に進んだ理由です。看護の勉強は楽しく面白いし、奥の深さを感じます。患者さんの元気の源になれる看護師になるのが目標です。

##### 責任とやりがいを感じています



兄が看護師だったのでこの仕事は身近に感じていました。人の命にかかわる仕事という意味で責任とやりがいを感じています。患者さんとコミュニケーションを密にし、信頼される看護師を目指します。

##### 入院生活を明るくできる看護師に



最終的に助産師をめざしています。小児の看護とかさまざまな分野に興味があります。入院生活はつらく暗くなりがちなので、気分を明るくできる看護師になれたらと思います。